

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100235		
法人名	社会福祉法人すずらん会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑		
所在地	和歌山県和歌山市屋形町1丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成25年10月7日	評価結果市町村受理日	平成25年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3090100235-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成25年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では「ここはみんなのおうち」を理念に掲げ、利用者様の人格を尊重し常に利用者の立場に立ち、その人がその人らしく生活できるよう支援しています。毎週、書道・絵画・音楽クラブを行っています。また、謡いやコーラス・絵手紙・手芸教室等、地域のボランティア講師の方が来てくれています。地域の幼稚園との交流やボランティア団体からの公演もあり、様々な行事の際には家族様や地域の方にも呼びかけ参加してもらっています。季節を感じながら、豊かな生活を送れるよう支援しています。利用者様の健康管理においては、協力病院と密に連携を取り、定期診察や急変時の時間外での対応も受け入れてもらえるように連携を取っています。いつでも相談できる体制作りにも努め、他職種協働で健康・安全に生活できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部、7階建て地域密着型複合施設の3階部分にあり、道を隔てた系列法人の協力医療機関と連携を密にしている。「ここはみんなのお家」の理念に基づき、「毎日楽しく」を念頭に置き、職員がやさしく寄り添い見守っている。入居者の励みや喜びとなるよう、法人施設合同でのクラブ活動も盛んに行われている。地域との繋がりを大事にして地域交流コンサートを開催している。食材の買い物も地域で行い、地域に見守られながらその人らしく暮らせるよう支援している。また災害時の地域の拠点としての役割も担っている。家族との信頼関係を大切に、常に家族の意見を取り入れる姿勢が持たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念として、「みんなと一緒に暮らす『ここはみんなのお家』を掲げており、管理者と職員一同で共有し、日々の支援につなげるように取り組んでいる。	入居者の尊厳と安全を基本として入居者が毎日楽しく過ごせるよう、開設当初から事業所独自の理念を掲げている。何事にも入居者の目線で考え、職員が共通の姿勢を持ちケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶や散歩等で交流しながら、地域の方にも施設での行事や、防災研修や避難訓練等にも参加してもらっている。	法人施設の行事には近隣にチラシを配り地域住民も参加している。車椅子の貸し出しをしたり、認知症の相談を受けたり、地域との交流は日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出かけたり、行事に来てもらったりと、地域の方とコミュニケーションをとれる機会を増やせるよう取り組んでいる。地域の方からの相談業務を受けたり、書籍等の貸し出しも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、法人内の3事業所合同で行っている。地域の方や利用者様・家族様・地域包括の職員等に出席してもらっている。意見や要望等を聞き、サービスの向上に活かしている。	入居者、家族からの意見、地域住民からの質問など、参加者間で活発な意見交換がなされ、出された意見や要望は運営やケアに反映させている。	会議の内容、事業所の方針や入居者に関する内容を知らせるなどの工夫で、多くの人から意欲的な参加が得られることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が近いので、いつでも出向ける環境にある。介護保険課や各担当課の職員と直接顔を合わせコミュニケーションがとれる。相談や指導を受けながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。	日頃より市に出向いて協力関係を築いている。市職員の職場体験の場として事業所が活用されており、入居者の状況を知ってもらう機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの実践を行っている。身体拘束についての苑内研修を毎年行っている。マニュアルも作成している。身体的な拘束だけでなく、心理的にも拘束・抑制を行わないケアの実践に取り組んでいる。	人格を否定せず、言葉による拘束もないように研修を行い、またマニュアルも作成され統一したケアを行っている。グループホームは3階にあり、家族の希望もあり、不審者の侵入を防ぐために、エレベーターをロックしているが、ホーム玄関入り口は解放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も毎年行っている。職員全員で各利用者様の状態・性格を把握し、より良いケアの実践に取り組んでいる。日々の状態観察や気分の変化等を見逃さないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はないが、管理者・職員は研修で学びながら、必要時には活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は書類を見ながら説明を行っている。変更事項等あれば、書面で配布し、わからないことがあれば説明を行い、理解・納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1Fのエレベーターホールに意見箱を設置しており、誰でもいつでも利用できるようにしている。意見や要望等あれば、随時会議を開催し検討・対応できるように取り組んでいる。	家族の来訪時に直接意見や要望を聞いており、個々に出される様々な要望に迅速に対応している。催し物の後にはアンケートを記入してもらおうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやフロア会議で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。普段から、管理者と職員はコミュニケーションをとれているため、意見交換を行い易い環境が作れている。代表者には週1回のケアマネ会議にて管理者が報告を行い反映されている。	職員同志が互いを尊重できており、意見や要望も発言し易い環境である。出された意見や要望は全体会議にあげられ運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネ会議にて、各職員の勤務状況や努力や実績、問題点等の報告を行っている。査定時期には各職員に自己評価と業務改善のアンケートを実施し、より良い環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修は毎月行っている。テーマは全職員のアンケート結果から決めている。外部研修についても、職員の能力や必要性に応じて参加を促している。業務の中でも個々のスキルチェックや指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で、他事行書の環境やサービス、問題解決等、情報交換を行いながらサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、出来る限り本人様の希望や不安を聞き、どのような支援が必要か話し合っている。安心できる環境作りと、本人の望む暮らしの実現に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や、電話等の相談により、家族様の希望や不安を聞き、適切なサービスを家族様と共に選択している。家族様にも安心してもらえる環境作りとサービスの提供に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様がその時に必要としている支援を考え、当事業所のサービスに限らず、他事業所のサービスやインフォーマルサービスの活用も含めた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じた必要な介護を行いながら、本人様の趣味や特技や経験を生活の中で発揮出来るように支援している。お互いに頼りにしながら、寄り添い共に過ごすことで、みんなで一緒に暮らすという理念の実現に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出支援等、家族様にも協力をお願いしている。行事にも参加を呼びかけ、共に過ごす時間をもってもらえるよう取り組んでいる。生活歴を教えていただいたり、日常の変化や気になったことは、何でも互いに相談できる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人にも気軽に面会に来てもらえる環境にある。 家族様の協力のもと自宅へ帰ったり、お墓参りに行ったり、美容室に行ったりもできている。	訪問しやすい雰囲気、趣味の仲間や友人の来訪がみられる。入居者の声を聞き、ドライブの際に馴染みの場所に立ち寄れることもある。家族の協力も得ながら、墓参りや外食などの習慣も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し考慮しながら、各個人やグループに応じた関係性や役割をもってもらい、互いに支え合いながら、ストレスなく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族様からの相談を受け付けたり、本人様の様子伺いに行ったり、関係の継続を大切にしている。行事の案内やお便りを出すようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、本人の思いや意向の把握に努めている。職員には、本人の言葉や表情・行動を見逃さず、気付きを大切にするように心がけてもらっている。	日々の関わりの中で聞いた言葉は申し送りノートに記載し共有している。言葉として思いを出せない入居者には、表情や行動から察知するように職員同士が共通意識を持って接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入所前の担当ケアマネ等に生活歴や生活環境、利用サービス等を聞き取るようにしている。居室には馴染みの家具や日用品を持ち込んでもらえるように依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックと食事・水分摂取量、排泄チェックを行い全職種で情報を共有している。支援経過記録を個々に毎日記入し、心身の状態に合わせた生活を送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や、医師・看護師・PT・管理栄養士・介護スタッフ等に話しを聞き、他職種協働でケアプランを作成している。 各利用者様の担当職員で24時間シートを作成し、個人ファイルに保管し職員全体で共有している。	24時間シートや業務日誌から、日々変化している入居者の思いを把握し、家族の意見など取り入れ、その人らしい計画を作成し、ケアの実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様個別で毎日、支援経過記録と、バイタルや食事摂量等を記入した熱表を記入している。行ったケアや本人の思い等、気付いたことは記入するようにしている。職員間で意見交換しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況、その時々ニーズに応えられるように、協力病院との連携や、他フロアとの協働ケア、その他サービスの活用についても検討し、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや幼稚園から慰問に来てもらっている。また家族様やお知り合いの方もイベントを開催してくれたりしている。地域へ買い物へ出かけたり、公園や和歌山城にも散歩に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を優先し、かかりつけ医を選択してもらっている。協力医療病院への診察は施設の看護師が付き添い、状態報告や相談を行っている。週に1回ずつ、苑に協力医療病院から、内科・整形・皮膚科の医師が往診に来てくれる。	今までのかかりつけ医との関係を大切にし、支援している。家族が受診に同行できない時は職員が行っている。週に1回協力医による往診があり、入居者、家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	苑内の看護師に、日々の体調や異変時の対応等の報告・相談はいつでもできる体制になっている。受診時の付き添い・服薬管理は看護師が行っている。申し送りノートは看護・介護スタッフ共同になっており、何かあれば都度記入し、情報を共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはカンファレンスを行い、病院関係者との連携を密に取っている。入院時には、情報提供書を作成し渡している。看護面・介護面の両方の情報を書き込むようにしている。入院中も様子伺いに行き、連携を図れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、家族・医師・看護師等と話し合いを行い、出来る限り家族の意向に添えるように取り組んでいる。看取りを行う際には、指針に沿って、職員全体でケアしていくように努めている。	事業所の方針は入居時に説明し確認している。急変時は医師、看護師、ケアマネジャーでのカンファレンスの後、家族を交えて話し合う。家族と随時話し合いを重ね方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や苑内研修で、傷病の理解や急変時の対応について学んでいる。緊急時にはマニュアルに沿って対応するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、施設全体で防災訓練を行っている。職員・利用者・地域の方にも参加してもらっている。消防署からも防災についての講演を行ってもらった。全職員が、避難経路や消火器の位置等を把握している。	避難訓練は入居者、地域住民も参加し、夜間など様々な想定で年2回行っている。実際に避難するなかでの課題も見つかри、安全な避難に反映させている。地域の指定避難場所にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や経歴を把握し、人格を尊重したケアに努めている。女性の入浴は女性で対応するようにしている。各個人のプライドを傷つけないよう、また、プライドを持ち続けられるような環境作りに努めている。	入居者の尊厳を守るために、入居者との触れ合いの中で、その人らしさを大切にしたい言葉遣いに気をつけている。個人情報の保護については徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	クラブ活動への参加や、入浴や外出等本人の希望に添えるように取り組んでいる。強制せず、本人にどうするか声かけをするように努めている。本人の思いを尊重したケアの実践を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や日中活動等、本人の体調やペース、希望や気分に合わせて行うようにしている。 時間に余裕を持ち、個別に柔軟な対応ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に着る服を選んだり、髪を整えたりしている。行事や外出時には、お化粧をしたり、その人らしいおしゃれができるように支援している。散髪は毎月理容店の方が施設に来てくれている。家族さんが美容室に連れて行ってくれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯はフロアで炊いている。副食は厨房で調理し、フロアで盛りつけと配膳を行っている。週に1度、フロアでの昼食作りとおやつ作りを行っている。その時のメニューは利用者様の意見を聞きながら共に楽しみに取り組んでいる。外食やお弁当の日も設けている。	管理栄養士による献立で栄養管理されている。月1回はお弁当の日を設け、其々が好きなメニューを選んでいる。個人の箸、湯呑みを使用し、職員と共に会話しながら食事を楽しんでいる。	準備、調理、後片付けを、楽しみとしての生活リハビリに活用し、やってみようという意欲を引き出せるような工夫にも期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録し把握している。食事メニューは管理栄養士により、カロリー管理されている。疾病や状態に応じて個別に対応したメニューや形態で提供している。嗜好調査を行いながら、栄養バランスの良い食事を提供できるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で行える方には準備し、声かけをし、歯磨き・うがいをしてもらっている。介助が必要な方には職員が行っている。協力歯科病院から、週に1・2回、口腔ケアに来てくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、それぞれの排泄パターンの把握に努めている。その方にあったトイレ誘導・声かけを行っている。自尊心を傷つけないように配慮しながら適切な介助を行い、できる限りトイレでの排泄が継続できるように支援している。	時間で決めるのではなく、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、プライドを傷つけないように誘導している。リハビリパンツを使用しているも、トイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、食事や水分摂取量に気を付けている、便秘傾向で排便コントロールが必要な方には、医師・看護師に相談しながら適切に便薬や浣腸等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週に2回の入浴を予定しているが、本人の体調や気分に合わせて実施している。失禁時等は、その場の状況に合わせて柔軟に対応できるように取り組んでいる。一人ひとりがゆとりと入浴できるように努めている。	一人浴槽であり、同性介助を基本としている。曜日や回数は決まっているが、臨機応変に対応している。入浴を拒む人には急ぐ事なくゆっくり会話し、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリを付け、日中活動を促し夜間良眠できるように努めている。一人ひとりの生活リズムに合わせて日中でも休息できるように配慮している。夜間、不穏時には寄り添い話を聞き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情を個人ファイルに入れており、職員全体で把握・確認をとれるようにしている。服薬管理は看護師が行い、服薬介助は介護職員が行っている。服薬確認・症状の変化や経過観察は看護・介護職員協働にて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字が得意な方、編み物が得意な方等、それぞれの得意分野を活かしてもらえるような働きかけを行っている。洗濯物を畳む作業は女性の利用者様は毎日率先して担当してくれている。個々にあった頼み事や手伝いをしてもらうことで、互いに「ありがとう」を言い合える関係作りを築いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるように、散歩やドライブに出かけたり、個人の買い物等の外出支援に取り組んでいる。普段から生まれ故郷の話しをよくしていた利用者様とその周辺へドライブへ行ったり、できる限り本人の思い出の場所や行きたいところへ行けるよう努めている。お墓参りや美容院等、家族様も協力してくれている。	地域への買い物など、外出支援に努めている。天気の良い日には、外気に触れ季節感を感じられるよう、車椅子を使用する人も一緒にドライブに出かけている。帰宅時、入居者から「ただいま」の声も聞かれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で所持している方は少額であるが、家族様協力により、事務所にて預かり金を管理しており、買い物や外食時に持ち出すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もおり、職員が電話を繋ぎ、本人が直接話しをできるように支援している。また、今年は暑中見舞いの絵手紙を利用者様と作成し各家族様に出した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は空調や明るさ等、不快にならないよう配慮している。花や手芸作品等、季節に合わせて飾るようにしている。習字や絵画作品なども掲示し、家族様にも見てもらえるようにしている。	明るく広々として入居者の手作り作品が多数飾られ、笑顔も多く見られてほのぼのとした雰囲気である。手すり付きの階段があり、入居者の移動も助け、リハビリにも役立っている。	家庭の延長、生活の延長としての、懐かしさ、使い易さ、居心地の良さも考慮した、リビングの装飾についての検討も期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食道やリビング、サロン等思い思いの場所で過ごしてもらえるよう椅子やソファを設置している。気の合った利用者様同士で過ごしてもらえるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族様に協力してもらい、馴染みの家具や日用品を持ち込んでもらっている。装飾や片付けもできるだけ本人で行い、その人らしい空間作りに努めている。	個人の作品が飾られ、家庭から馴染みの品も持ち込まれくつろげる居室となっている。ベランダで家庭菜園をしている入居者もいる。ベッドからの転倒の予防に畳、クッションも使用できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて家具の配置を変更し、安全で本人が動きやすい環境作りに努めている。ベッド回りや日用品の置き場所、必要な介護用具等、本人が使いやすいように工夫を行っている。		